

コーナー展示 「初公開！新井(こう)家文書～地方の俳諧

宗匠を務めた新井家～」

新井(こう)家は、久保田村(比企郡吉見町)の名主を代々つとめた家で、江戸中期から明治初期にかけて歴代の当主は俳諧を趣味とし、江戸の有力な俳諧結社である東武獅子門の俳人でもありました。東武獅子門は仙石廬元坊(せんごくろげんぼう)が始めて、神谷玄武坊(かみやげんぶぼう)が中興した結社で、毎年、前年に亡くなった門人たちを悼んで句集「墨直し」を刊行しました。また、正月の配りものである「歳旦」を熱心に発行していたことでも有名でした。

今回は、新井家が所蔵する俳諧関係資料のうち、東武獅子門の特徴である「墨直し」と「歳旦」及び歴代の新井家当主と俳諧との関わりを示す資料を展示し、江戸と近郊農村の文芸活動の一端を紹介します。

1 会 期

平成24年6月12日(火曜日)～9月16日(日曜日) 9時00～17時00

※ 休館日 毎週月曜日

2 展示の構成及び展示点数

- | | |
|-------------------|----|
| (1) 開祖 玄武老人と鏡裏坊野松 | 7点 |
| (2) 宗匠新井家と親戚の俳人たち | 7点 |
| (3) 追悼句集「墨直し」の世界 | 5点 |
| (4) 正月の配りもの「歳旦」 | 9点 |
| (5) 句集いろいろ | 7点 |

3 主な展示内容

- (1) 葛飾北斎が描いた絵のある色刷り歳旦
- (2) 東武獅子門門下の人々が作った墨刷りの歳旦
- (3) 追悼句集「墨直し」を含む刊行された各種の句集
- (4) 新井家歴代当主が関わった作品群(草稿・筆写された句集と原稿)

4 展示場所

埼玉県立文書館 1階展示室

(さいたま市浦和区高砂4-3-18 電話 048-865-0112)

※ 浦和駅徒歩12分/中浦和駅徒歩15分